

「第10回学生生活実態調査報告書」（令和6年度大学院生生活実態調査）の結果に基づく対応について

この表は令和6年11月に実施した第10回学生生活実態調査の結果、「問題がある」、「改善の必要がある」、あるいは「他より優れている」と判断された事項を学部ごとにとりまとめ、その対応計画とその計画についての進捗状況を示したものです。これら事項につきましては定期的に進捗状況を更新していく予定ですので、学生、教職員のみならず皆さまにつきましてはお気づきの点や改善に係るアイデア等がございましたら、下記までお知らせくださいますよう、お願いいたします。

連絡先：徳島大学学生支援課  
E-mail：kyseikatuk@tokushima-u.ac.jp

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
創成科学研究科 地域創成専攻	キャンパスライフ健康支援センターの保健管理部門の利用が少なく、特に健康診断での利用が他専攻より少ない。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の利用を呼び掛ける。	キャンパスライフ健康支援センターとの相談を実施する計画を進め、呼び掛けの具体的内容を検討中である。
	キャンパスライフ健康支援センターの総合相談部門について、59%は知っているが利用しておらず、利用したのは9%のみであり、悩みごとの相談の相手に挙がるのが少ない。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門の利用を呼び掛ける。	キャンパスライフ健康支援センターとの相談を実施する計画を進め、呼び掛けの具体的内容を検討中である。
	学位授与に至る教育課程に対して、全員が「満足」「どちらかといえば満足」と答えていた。	この調子で良い	引き続き「満足」評価となるよう教育課程の改良すべき点や問題点の顕在化に努める。
	授業や研究指導の進め方・内容について、全員が「満足」あるいは「どちらかといえば満足」であり、指導教員とのコミュニケーションも全員が「充分」あるいは「ある程度取れている」という結果であった	この調子で良い	引き続き「満足・充足」評価となるよう授業研究活動における改良すべき点や問題点の顕在化に努める
創成科学研究科 臨床心理学専攻	健康状態に問題が生じている。睡眠時間が短く、身体症状が有る者が多く、回答者すべてが不安を有していた。半数以上がキャンパスライフ健康支援センターの保健管理部門を訪れていた。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の利用を呼び掛けるとともに、健康不安を取り除く策を講じる。	不安の解消を目指しキャンパスライフ健康支援センターとの相談を実施する計画を進め、呼び掛けや策の具体的内容を検討中である。
	犯罪の被害や迷惑行為を受けたと答えた学生が少数おり、友人と教員に相談している。キャンパスライフ健康支援センターの総合相談部門は全員に知られているが、利用したのは14%にとどまっている。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門の利用を呼び掛ける。	キャンパスライフ健康支援センターとの相談を実施する計画を進め、呼び掛けの具体的内容を検討中である。
	授業や研究指導の進め方・内容について不満があり、また指導教員とコミュニケーションが取れていないという学生がそれぞれ4割おり、本学の教育に対して望むものとして、「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」（31%）、「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」（25%）が挙げられていた。	主指導教員のみではなく、副指導教員、アドバイザー教員との連携を強めた教育体制を検討し、教育改善に努めたい。また、授業アンケートなどを精査し授業の問題点を明らかにし、改善策を挙げる。	教育改善に努めるべく、学年末の授業アンケートの精査を進め、教育体制の問題点と改善点を挙げる予定である。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
創成科学研究科 理工学専攻	質問48 研究科の教育理念や教育方針については、「良く知っている」「だいたい知っている」が59%で、本研究科他専攻や他研究科に比べてやや低い。	オリエンテーションなどで研究科の教育理念や教育方針を周知徹底する	オリエンテーションや学期始めのコースガイダンスにて周知する予定である。
	質問83：英語力について、「あまりできない」「できない」割合が多く、英語力を高める必要がある	本学インターナショナルオフィスや国際連携教育研究センターが企画する英語イベントなどへの参加を呼びかける	オリエンテーションや学期始めのコースガイダンスにて周知する予定である。
	後期課程への進学希望が10%あるが、希望進学先が「本学」は、前回の100%から76%に大きく下がった。	博士後期課程への進学希望者を増やせるよう広報活動等を積極的に行う	8月に開催した、理工学部オープンキャンパスにおいて、博士後期課程への進学メリットのアピールや支援制度について案内を行った。引き続き継続して案内予定である。
	質問31：現在の精神状態でなんとなく不安等、良好ではない割合が1/3程度の学生がいる	掲示物などで、総合相談部門の利用などを呼びかける	学部掲示板にて、総合相談部門の案内を掲示及びガイダンスにて周知。また学生との個別面談時に状況に応じて個別に案内するようにしている。
創成科学研究科 生物資源学専攻	親等から全く経済的援助を受けない、あるいは5万円未満しか援助を受けていない学生が、増加している。奨学金受給希望者も増加している。全体平均よりも少ない睡眠時間もアルバイトの影響を窺わせる。	各種奨学金の周知と受給率アップを目指す。実験は、睡眠時間を削ってまでするものではなく、時間の使い方を教える。学生に、アルバイト時間や睡眠時間を確保させるように、行動計画作りを含めた研究指導を行う。	・指導教員に対して現状を説明し、学生への各種奨学金の周知を依頼した。 ・実験などの研究計画については各学生の生活面も考慮し、長時間の実験を課さないよう、柔軟な配慮を依頼した。
	悩みを抱えている学生の割合が前回調査よりも低下	コロナが明けた影響と思われるので、このまま継続	現状を報告した。
	教育課程の満足度や大学院に相応しいレベルの教育が行われていないと思う学生の割合が全体平均よりも高い。	大学院講義内容の高度化、学外講師の活用、他の研究室や他大学との共同研究を行うことで、多様な研究手法を学ばせる。教員は研究テーマがマンネリ化していないか、新たな研究手法を取り入れるなど工夫が必要。共同研究を活性化しておけば、獲得研究費が少ない場合の学生教育に活かせる。	・講義内容の高度化、ブラッシュアップと研究の活性化を進めていただくように依頼した。 ・研究テーマの見直し、学生の教育と研究の質の向上につながるよう共同研究のあり方などを検討していくこととした。
	前回と比べ、研究環境に満足していない学生の割合が低下した。	このまま継続して研究環境の整備に努める。	現状を報告した。
博士後期課程への進学希望者の存在（条件付きを含め11%）	教員から勧誘の言葉をかける。奨学金制度の周知徹底。学会や先輩の招聘などで、博士課程進学者や取得者との懇談の場を設ける	・指導教員や研究室内の博士課程進学者から前期課程への進学予定者や在学者に勧誘の言葉をかけることとした。	

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
創成科学研究科 創成科学専攻	前回調査と比べ、海外留学生が減少した。	コロナで人の行き来が制限された影響から、まだ、回復していないと思われる。海外からの留学生を増やすにはサマースクールやスプリングスクール参加者への声掛け、海外協定校訪問等による宣伝活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部、博士前期の留学生に対して、積極的に博士課程後期への進学を進めている。</li> <li>・国際学会などでも海外学生に声を掛けている。</li> <li>・博士後期課程定員充足プロジェクトの一環として、マレーシアマラッカ技術大学および国立台湾科技大学などの複数の海外協定を訪問して宣伝活動を行い、海外留学生の受け入れについては継続した広報活動が実施されている。</li> <li>・サマースクール、スプリングスクールなどの参加の呼びかけを適宜実施している。</li> </ul>
	後期課程への進学希望が10%あるが、希望進学先が「本学」は、前回の100%から76%に大きく下がった。	博士後期課程への進学希望者を増やせるよう広報活動等を積極的に行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に開催した、理工学部オープンキャンパスにおいて、博士後期課程への進学メリットのアピールや支援制度について案内を行った。引き続き継続して案内予定である。</li> <li>・うずしおスカラーなどの支援制度を紹介しながら、学部、博士前期の学生に対して、積極的に博士課程後期への進学を進めている。</li> <li>・教授会等における充足率の共有を行い、博士後期課程合同説明会等において魅力発信に努めている。</li> <li>・指導教員による広報を適宜実施している。</li> </ul>
	留学生の年間低所得（250万円未満）の増加	奨学金制度の拡充、リサーチアシスタントへの採用、留学生でもできるアルバイトの紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・RA、TAに積極的に採用している。</li> <li>・RAを含め、奨学金制度は充実してきているが、特に私費留学生については継続したフォローを行っている。</li> <li>・指導教員による紹介を適時実施している。</li> <li>・次回アンケートの機会に、留学生の所得を調査し、改善がみられたかどうかの確認を行う。</li> </ul>

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
創成科学研究科 創成科学専攻	睡眠時間（6時間未満）学生の割合が高い	睡眠時間が取れていない要因がわかれば、指導教員と相談する。アルバイトで睡眠時間が取れていないならば、行動計画作りを含めた研究指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に面談を行い、研究のみならず、生活面においても学生の事情に合わせて指導している。</li> <li>・主指導教員に加えて副指導教員、アドバイザー教員による研究指導が継続的に実施されている。</li> <li>・次回アンケートの機会に、留学生の睡眠時間を調査し、改善がみられたかどうかの確認を行う。</li> </ul>
	研究指導の内容や進め方、論文の研究テーマについての満足度が90%以上であり、博士後期課程としての高度な研究指導を実施でき	今後も博士後期課程としての充実した研究指導を継続して実施していく。	引き続き動向を注視しつつ、充実した教育を継続する。
	就職先としてアカデミアから企業研究者へのシフト	学位取得後に、多様な選択肢を考えておくのはよいと思える。一方で、指導教員から見れば、弟子の育成でもあり、アカデミアの魅力を伝える努力も必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属講座の後輩学生の研究に積極的に関与や博士後期課程合同説明会の開催、学会への参加を通じて、アカデミアの魅力ややりがいを実感してもらえるように努めている。</li> <li>・指導教員により、学生の事情に合わせた指導を実施している。</li> <li>・現在は学生は多くの就職情報を得ることができており、多様な選択肢から自分にあった就職先を選んでいるものと思われ、特に何かを改善することではないとも考える。</li> <li>・社会人ドクターが多いプログラムでは、アカデミアと民間の壁は比較的低いと考えられる。</li> </ul>
	質問48～50：教育理念や教育方針の理解度は「良く知っている」「だいたい知っている」を合わせて84%であり、創成科学専攻に改組されてもその教育内容などが周知されているようである。また、教育理念や教育方針に沿っていると感じているようであり、教育に対する満足度も高い	今後も博士後期課程としての充実した教育を継続して実施していく。	引き続き動向を注視しつつ、充実した教育を継続する。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
医学研究科	アンケートの回収率が特に博士課程で低い（修士課程62%，博士課程15%）。	指導教員を通しての回答依頼を強化する	指導教員が回答依頼を行なっている。
	セクハラ、アカハラに際して、相談先として総合相談部門の利用が少ない。	総合相談部門の認知度は概ね7割以上ではあるが、オリエンテーションなどで周知を徹底する。	オリエンテーションにて周知をしている。
	授業、研究指導やコミュニケーション、研究環境に関して満足度が高い。	今後も授業内容、研究指導、コミュニケーション、研究環境について高い質を保つ。	それぞれについて高い質を保つ努力を続けている。
口腔科学研究科	盗難・セクハラ・パワハラを受けたとの回答が少数ながら依然として存在する	盗難に関しては注意喚起を継続し、ハラスメントについても教員FDを継続する	貴重品の管理についての注意喚起及び及びハラスメント相談窓口に関する文書を通じた
	交通事故の被害者・加害者が少なからずいる	交通マナーとルール順守について、引き続き啓発活動を行う。特に2024年から始まった自転車に関する道路交通法の改正について、新入生だけでなく在校生にも周知する機会を設ける。	交通マナーとルールの遵守に関する文書を通じた
	研究活動時間が週に10時間未満の学生が半数程度存在する	大学院生が研究活動と捉えている活動を調べた上で、研究活動時間を確保するよう、指導教員に協力を仰ぐ 研究活動時間の基準を週20時間以上とし、この基準に沿って研究指導計画書の作成を求める。大学院教育において研究活動が最も重要な柱であることを、オリエンテーションを通じて学生に周知する。	年度当初のオリエンテーションにおいて、研究活動時間の目安を示し、指導教員と十分に相談した上で研究時間を確保するように周知を行う予定である
	コロナ禍が一応の収束をみたにもかかわらず、国際学会での発表経験のある者が少ない	国際学会での発表を積極的に促すとともに、財団等による国際学会発表支援制度を適宜周知する。一方、経済的負担を考慮して国内で開催される国際学会への参加を奨励するとともに、学会参加への経済的支援を強化する方策を検討する。また、英語での発表力を高めるため、関連プログラムの活用を促進する。	国内で開催される国際学会等の開催通知ポスターを掲示し、学生に周知を行った。また英語での発表力を高めるため、口腔科学研究科でのリトリート開催に向けた検討を行うこととした。
	本アンケートに対する回答者が少ない	アンケートの回答をこまめに促す。アンケート結果から改善された事項について広報を行う。	挨拶システムからの通知に加え、指導教員からも、アンケートへの回答について呼びかけを行った。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
薬学研究科	「健康状態」について、気になる症状が時々ある・常にあると回答した学生は、前期課程40%、後期課程47%と、第9回調査とほぼ同じ結果であった。悩みごとを「誰にも相談しない」と回答した者は、前期課程15%、後期課程6%であった。悩みごとの相談相手としては、友人や家族との回答が多く、総合相談部門や保健管理部門の利用は前期課程、後期課程共に0%であった。	研究室で多くの時間を過ごす大学院生の心身の健康保持・増進のため、総合相談部門や保健管理部門のサービス内容を学生や教職員に周知徹底し、有効利用を促す取り組みを継続していく必要がある。	薬学部FD研修会（学生のメンタルヘルスの不調の理解と対応）を開催し、薬学部の学生の現状を把握するとともに、総合相談部門や保健管理部門のサービス内容を学生や教職員に周知徹底し、有効利用促進を図った。
	教育課程に対する満足度は、満足している・どちらかといえば満足していると回答した学生が、前期課程は100%（第9回調査95%）であり、後期課程も94%（第9回調査95%）と同様に高い水準を維持していた。一方、第9回調査と同様に後期課程で6%の学生が不満足であると回答している。	教育理念や教育方針の入学前周知に一層努め、研究室の枠を越えた研究科全体での取り組みについて検討する必要がある。	大学院教育を所掌する学務委員会およびFD研修会において、教育理念や教育方針の周知方法および研究室の枠を越えた研究交流についての取り組み策を検討した。
	現在の研究環境について、後期課程の24%が、どちらかといえば満足していない・満足していないと回答している。その理由として、施設・設備および研究費用が多くを占めた。	より充実した研究環境を提供するために、基盤的な研究施設の維持管理を徹底するとともに、耐久年限を越えて老朽化した共通機器等に対する措置が必要である。学内の共通機器は最新型への更新も随時行われており、当該機器へのアクセス方法も周知する。	耐久年限を越えて老朽化した共通機器等への措置に対する要望および学内共通機器へのアクセス方法の周知について検討した。
	語学力を高めるために、何もしていないと回答した学生が、前期課程30%、後期課程29%と、第9回調査（前期課程46%、後期課程47%）より大幅に減少した。前期課程50%、後期課程56%が、海外渡航経験として学会参加をあげた。	COVID-19による海外渡航の自粛が解消していることに加え、国際学会での発表支援制度や薬学研究科において独自に開講する薬学英語特論（必修科目）の充実が語学力向上への意識づけとなったと評価される。	引き続き、国際学会での発表支援制度や薬学研究科において独自に開講される薬学英語特論（必修科目）の充実を図る。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
医科栄養学研究科	回答率が26.9%で、前々回（60.4%）、前回（33.9%）と低下傾向が続いている。	指導教員を通しての回答依頼を強化する	指導教員が回答依頼を行なっている。
	学内でのアカハラ、セクハラを受けた人は0%であった。	今後も良好な環境を継続する。	良好な環境の継続に努めている
	2-3割の学生が総合相談部門の存在を知らない	オリエンテーションなどで周知を徹底する。	オリエンテーションにて周知をしている。
	大学事務室の対応への満足度が非常に高かった。	今後も良好な対応を継続する。	良好な対応の継続に努めている。
	指導教員とのコミュニケーションについて「あまり取れていない」が前期過程では0%なのに対し、後期課程では18%であった（前回31%、属性はほとんどが社会人大学院生）。	改善しつつあると考えられるので、今後も継続していく。	改善しつつあると考えられるので、これまでの密なコミュニケーションに努めている。
保健科学研究科	アルバイトにおけるトラブルを回答する割合が他の研究科と比べて突出して高い。	指導教員が面談の際などに聞くべき項目の中にこの点を入れる。	教授会で情報共有した。アルバイトのトラブルに限らず学生状況の把握に努めている。
	現在の精神状態において「やる気が出ない」が31%と目立って多い。キャンパスライフ健康支援センターの周知は十分と考えられるが、総合相談部門については2-4割の学生が「知らない」と回答しており、周知の必要性が高い。	やる気が出ないなどのメンタルな悩みについて、社会人学生の比率が高いため、その原因は職場、あるいは働きながら大学院で勉強するというストレスそのものにあるという可能性もあるが、総合相談部門を訪ねることで、改善は期待できる。オリエンテーションなどでより徹底して紹介をしていく。	キャンパスライフ健康支援センターおよび総合相談部門について次年度以降オリエンテーションで学生に周知することを徹底する。